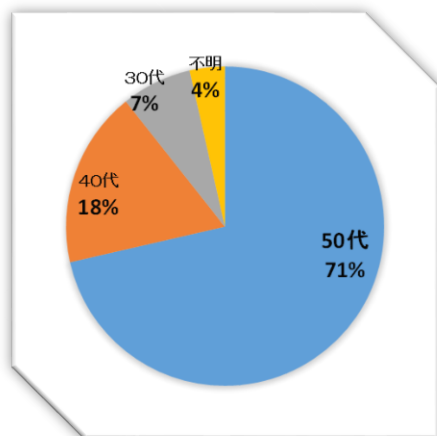


【アンケート集計】

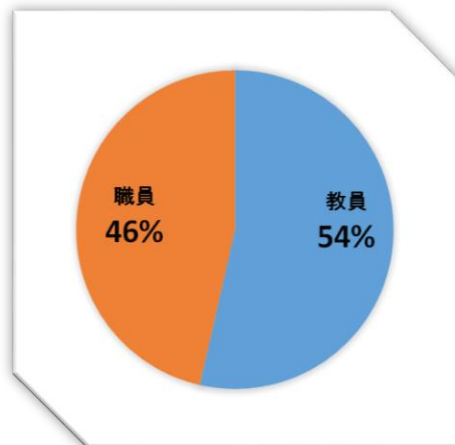
参加者 合計 125名 アンケート回収率 22,4% (28名)

1. 属性

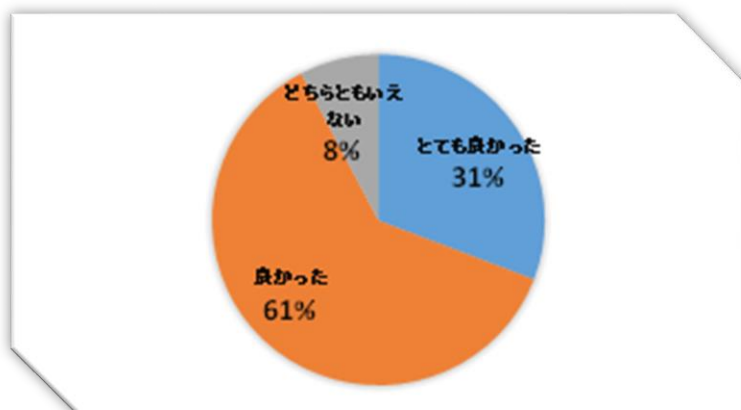
年齢



職責



2. セミナー全体評価



- ・スタートセミナーとしては、事業取り組みについてわかりやすかった
- ・兵庫県で代表する3大学が連携することにより、実現可能性が大きいことがわかった
- ・登壇者が多彩。会場・設備がよい
- ・各大学の取り組み関係を議論する場を作ればよいのではないか
- ・社会的に責任ある地位に着くことを躊躇する女性が多い文化風土をどう改善するのか難しい問題。管理者登用数など数字を上げるのは簡単ですが。大企業と圧倒的に多い中小企業の現状を考えると、事業主行動計画には疑問。ただ、能力を持ちながら、家庭に埋もれている潜在的労働力の未活用は、日本にとっても大きな損失であると思います。

3. クレーグヘンダーソン氏の講演評価

- ・性差に対する偏見やライフの変革とその認識など、女性研究者支援に内在する課題が具体視できる講演でよかった

- ・グローバルスタンダードの考え方がより詳しく理解できた。
- ・研究者（理系）を続けようと思う一方、結婚や将来子供を育てること、また海外に住むことを考えているが、環境が整っていないので、「研究者が家庭を持つための環境を考慮した雇用形態を整える施策」についても知りたかったです。
- ・具体的で興味深く拝聴した。
- ・アメリカの事例がわかった
- ・米国でもやはりポストドクやテニユア前のポジションにある女性が、家族形成を機にドロップアウトしている現実があると聞き、日本と同じだと感じるとともに、実効性のあるサポートをしていて、すばらしいと思った。
- ・アメリカでも女性が家庭と研究を両立するのが難しいと知って驚いた。さらに人種問題もあり複雑だということがわかった。ワークライフバランスについてはいろいろと考えさせられた。
- ・アメリカにおける現状がよくわかりました。日本で何をすべきなのか、何をしなければ成らないのか、考えることができる貴重な講演でした。

4. 内閣府池永氏の講演について

- ・国の取り組みが多面的な広がりを持ち始めていることがわかった。成長戦略は日本の将来を左右する重要課題なので、女性支援も掛け声だけに終わらないようにしなければいけない
- ・思った以上に国が支援をするための基礎固めをしていることを知ることができてよかったです。勉強になりました。
- ・政府の取り組みが体系的に理解できた
- ・子育てだけでなく介護問題についてどのような対策をとっているか知りたかった。
- ・男女ともに働きやすい社会になってほしいと思いますが、女性の登用を促進することも大切だと思います。政府の取り組みに期待しています。

5. 文部科学省和田氏の講演について

- ・理工系の女性研究者数が少ないことは、中学・高校生からの支援をもっとするべき。
- ・文科省の取り組みがわかりやすく理解できた。
- ・わかりやすかったが、もっと具体的な事例を紹介してほしかった
- ・女性研究者に関する細かいデータが参考になった。
- ・研究における学会出張、海外留学、海外出張が多くあり、今の状況では出産子育てには無理がある。
- ・今の女性研究者の環境問題、ダイバーシティの実現について根拠やデータがわかりやすく、学べた。
- ・女性研究者を取り巻く環境についての危機意識が高まりました。